

歯周病について

なにが違うの？



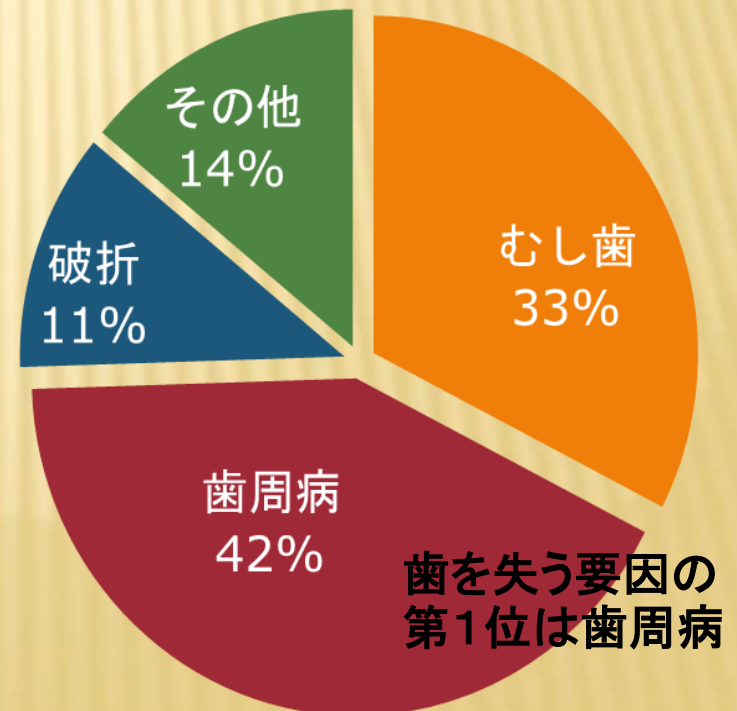
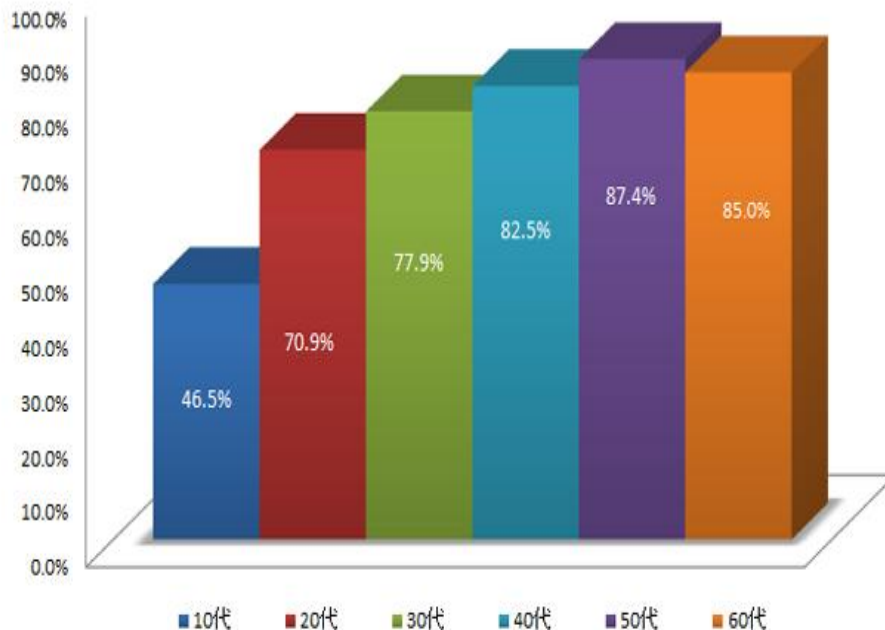
歯周病

歯肉炎

歯槽膿漏

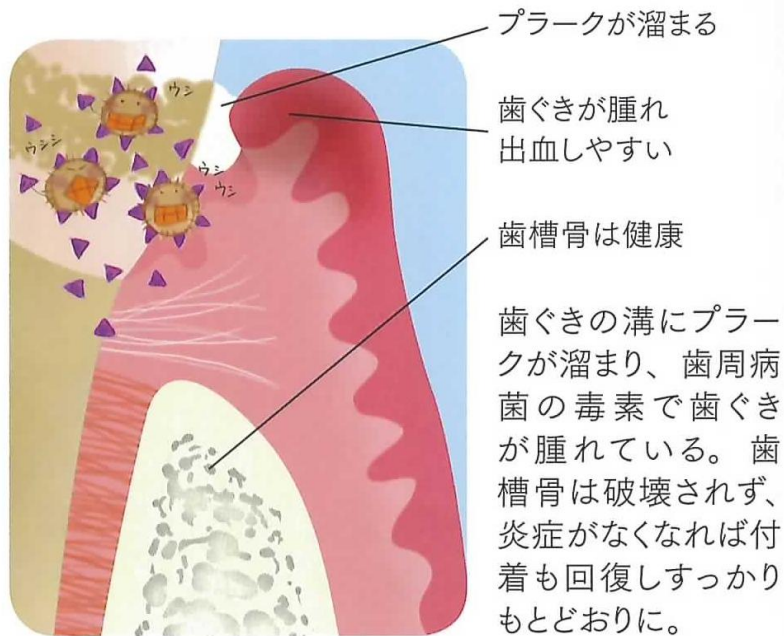
歯周炎

年代別歯周病にかかっている人の割合

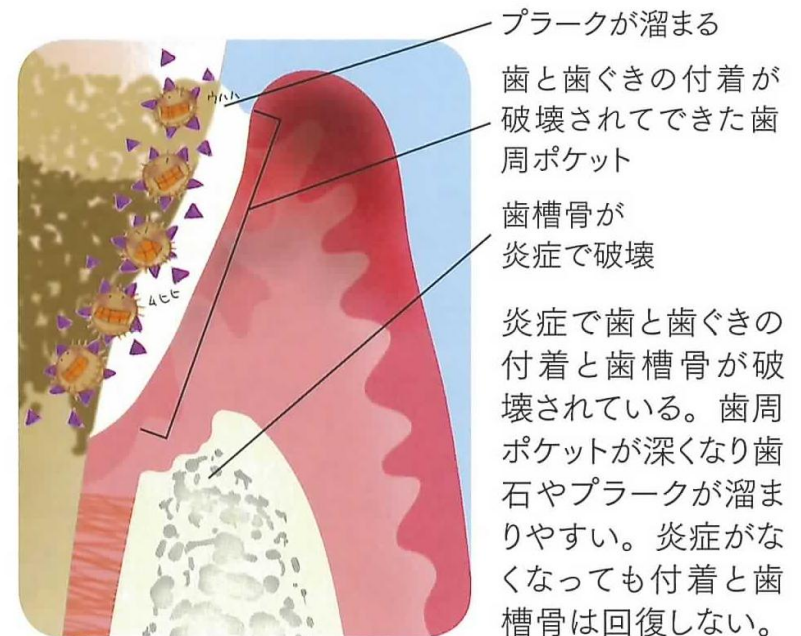


歯周病は歯肉炎と歯周炎の総称です

歯ぐきだけが腫れた段階 歯肉炎

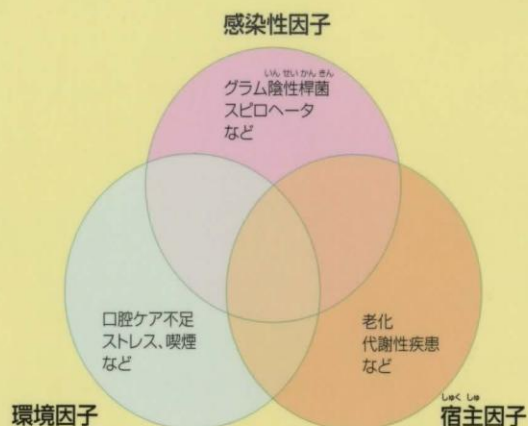


骨まで溶けた段階 歯周炎

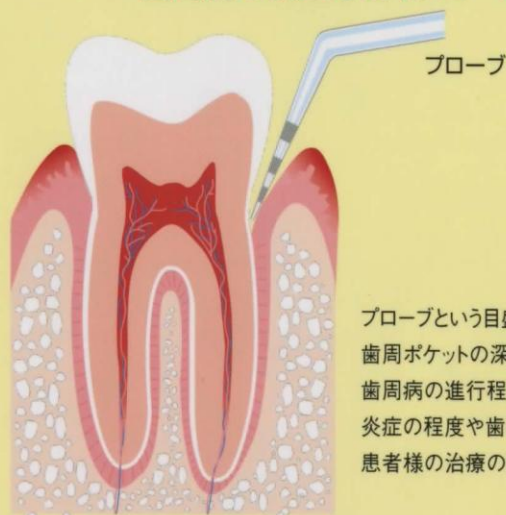


歯周病とは、歯肉や歯槽骨など歯の周りの組織が破壊される病気のことをいいます。
30歳以上の方の約80%が歯周病に罹患しており、歯を失う原因のひとつです。

歯周病の原因



歯周病の検査方法(プロービング)



プローブという目盛りのついた器具で
歯周ポケットの深さを測ります。
歯周病の進行程度や出血などによる
炎症の程度や歯石の付着程度などを診査して
患者様の治療の計画を立てていきます。

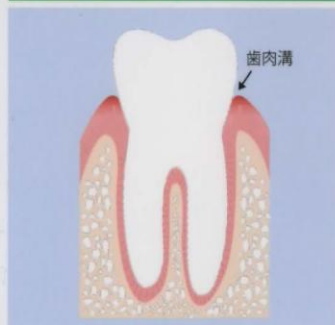
このような症状があれば
歯周病です。

歯周病のチェック項目

- ☐ 歯肉から出血する
- ☐ 歯肉が赤く腫れている
- ☐ 口臭がある
- ☐ 歯肉がむずがゆい、痛い
- ☐ 歯が長くなったような気がする
- ☐ 硬いものが噛みにくい
- ☐ 歯と歯の間に隙間ができた
- ☐ 歯がグラグラ動く

歯周病の進み方

健康な状態



歯肉は引き締まっていて、淡いピンク色をしています。
歯槽骨の吸収もなく、歯根膜の破壊もない状態です。
歯周ポケットも認められません。

歯肉炎



歯肉溝にプラークがたまり、歯肉に炎症が起こり、
歯周ポケットが形成されます。
まだ、歯槽骨の吸収は認められません。

軽度(P1)



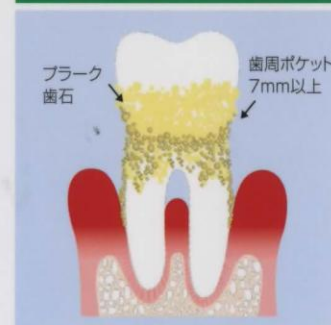
歯肉は炎症を起こし、少し赤みを帯びてきます。
ブラッシングすると出血を伴います。
この頃から歯槽骨の吸収が始まり、
歯周ポケットは、4mmほどになります。

中度(P2)



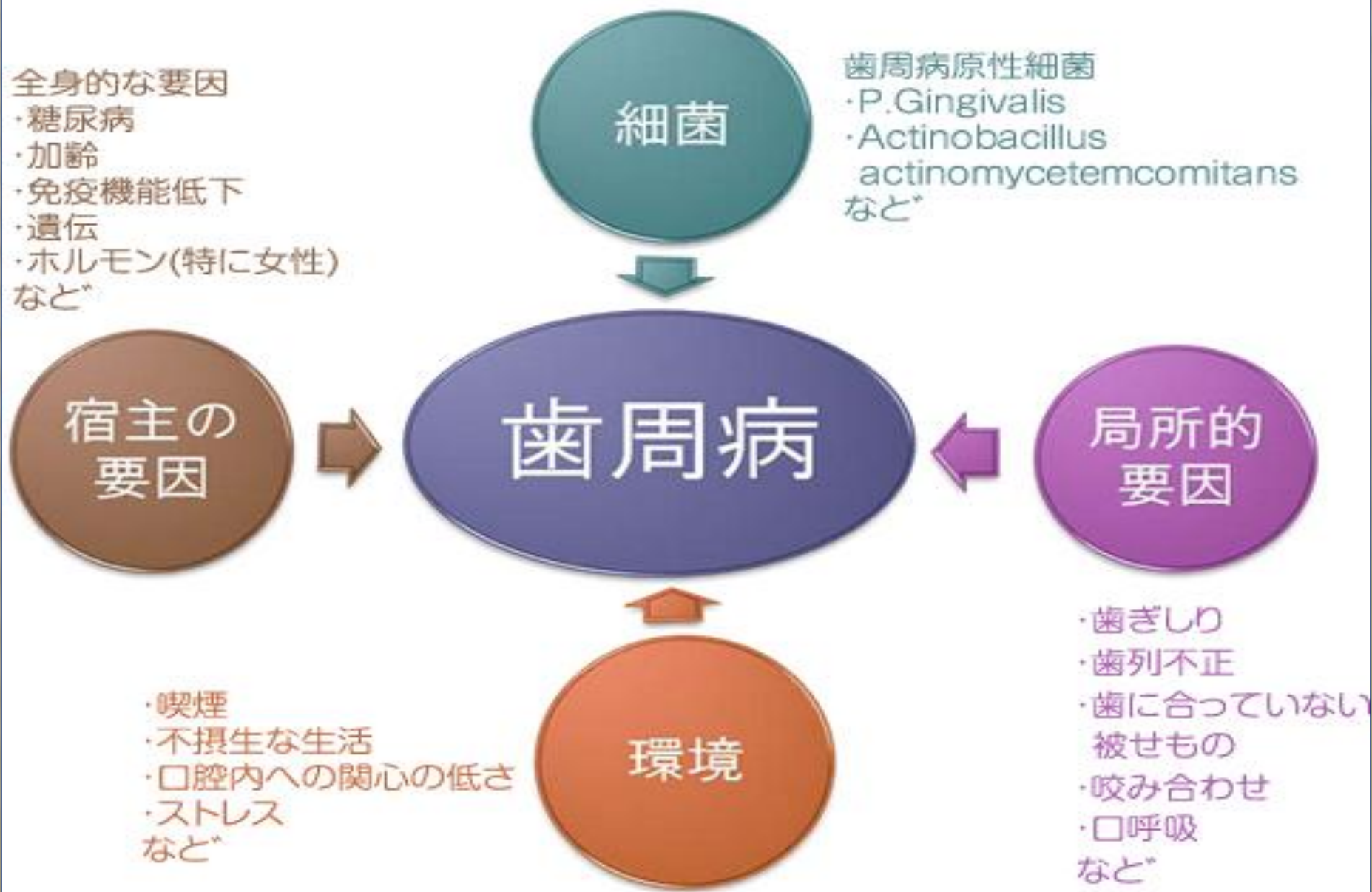
歯肉の炎症は進み、出血や排膿を伴います。
歯槽骨の吸収も進行し、
歯根膜も破壊されてきます。
歯周ポケットは5~7mmくらいになります。

重度(P3)



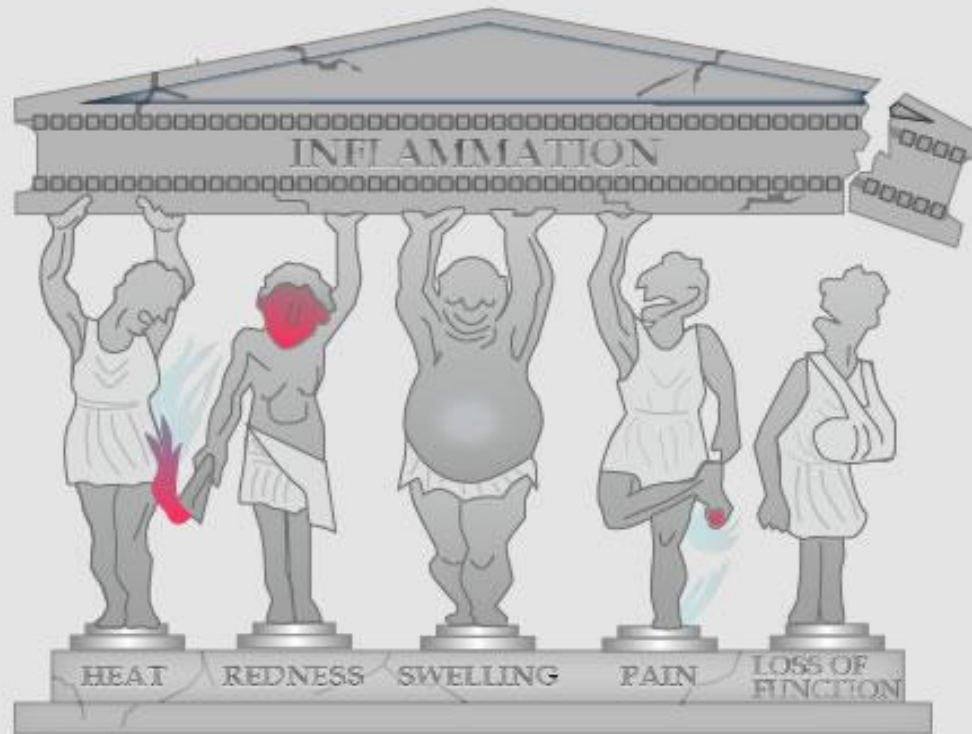
出血や排膿を伴います。歯の動揺も著しくなります。
歯槽骨は吸収され、歯牙を支える部分はほとんど
なくなります。

歯周病の原因は？



歯周病の要因論

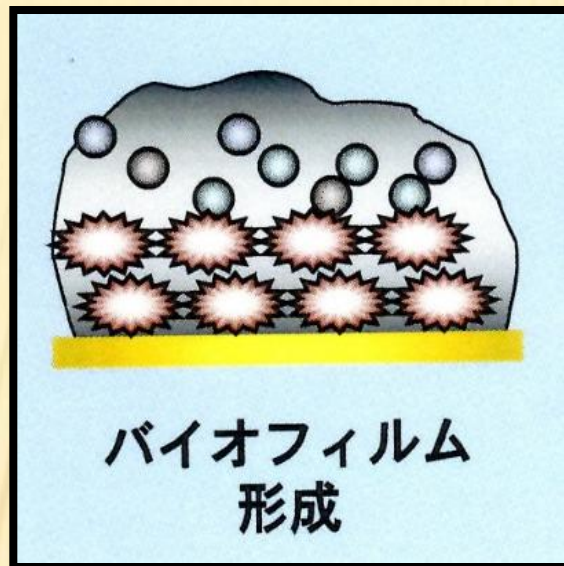
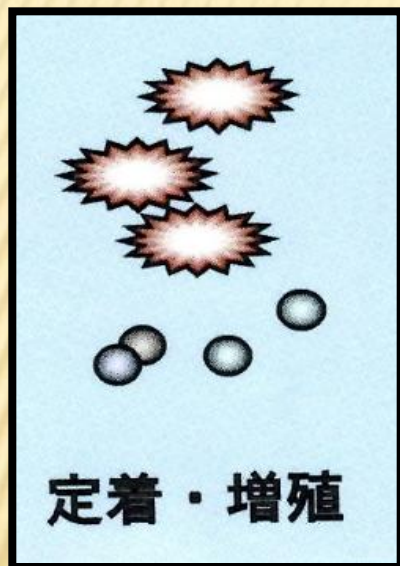
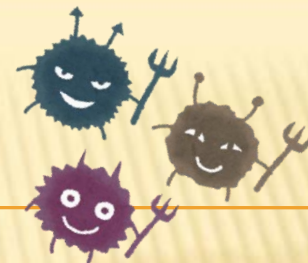
どんな症状を感じる？



- 1)発赤/redness...血管拡張により局所が赤くなる
- 2)発熱/heat...血管拡張により局所が熱をもつ
- 3)腫脹/swelling...血管透過性の亢進により局所が腫れる
- 4)疼痛/pain...内因性発痛物質などにより局所に痛みが出る
- 5)機能障害/loss of function...細胞・組織・器官などが正常に働かない

歯周病の要因論

どうやって進むの？

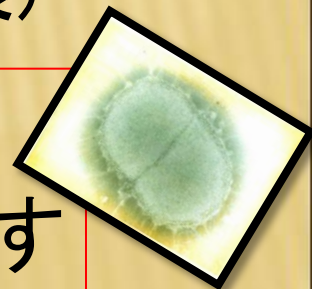


唾液中の歯周病細菌 (P.g.菌 A.a.菌) が唾液を介して侵入

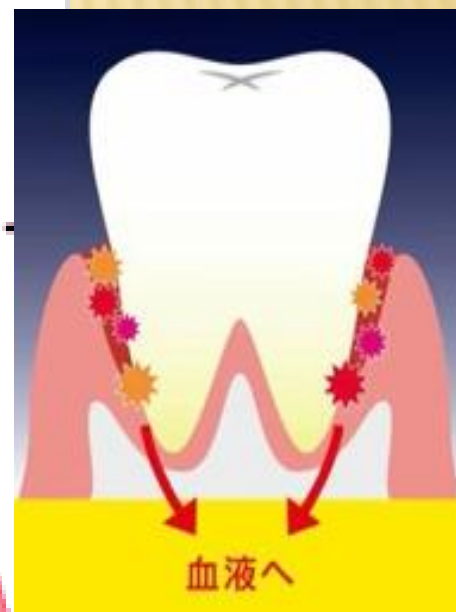
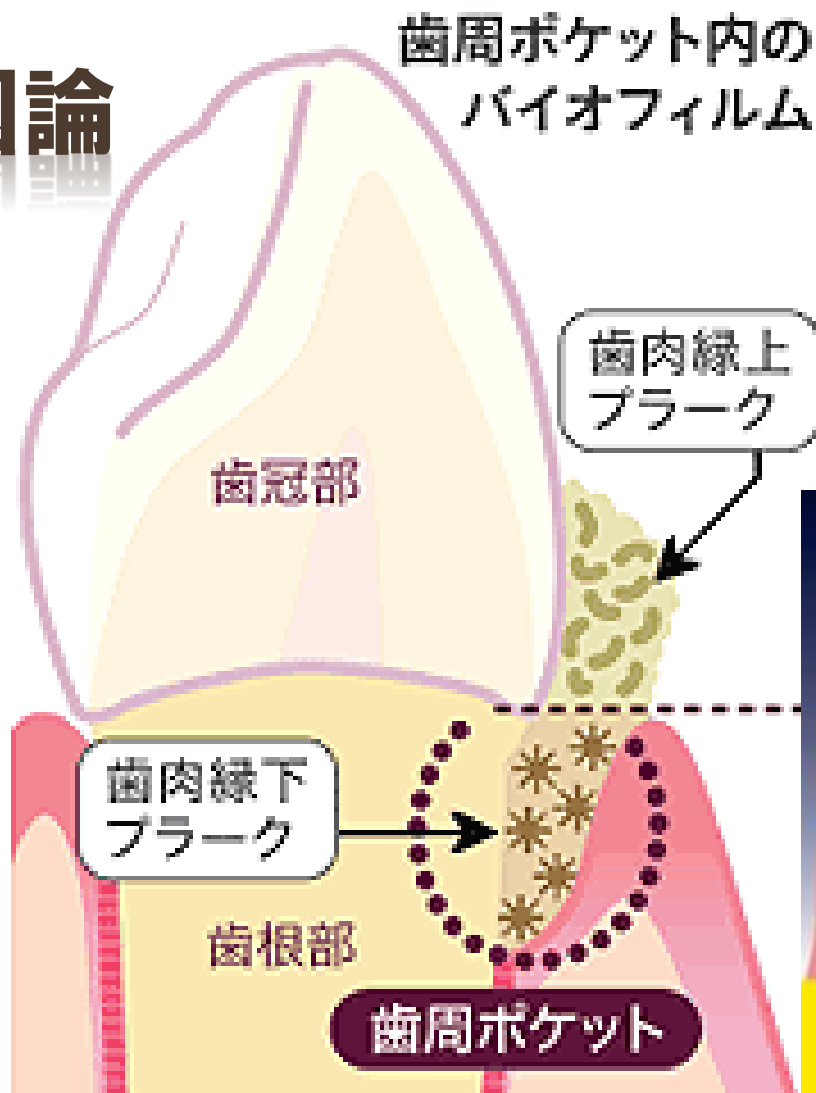
プラーク中の歯周病細菌が増殖 (口腔内の清掃状態不良)

歯周病細菌は**プラークの中にも！！**

プラークが原因でさらに悪化します



歯周病の要因論

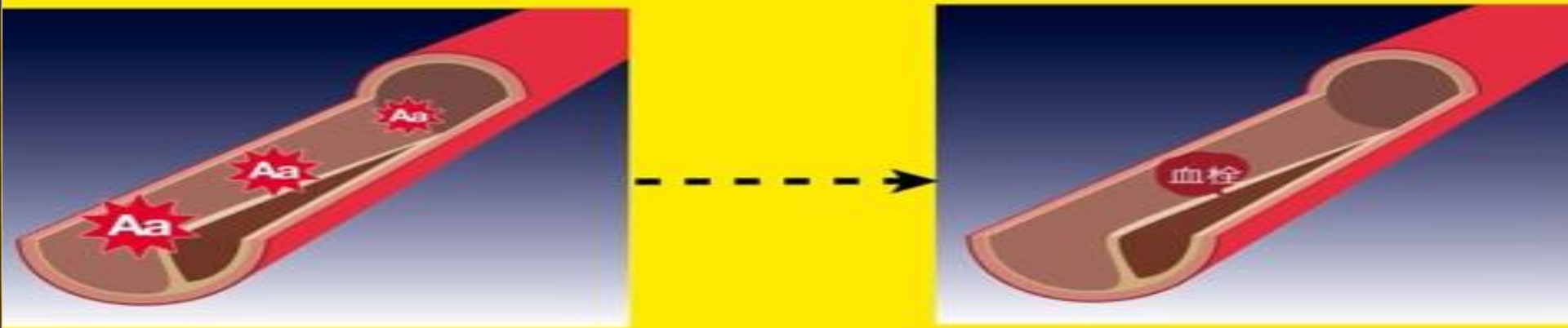


歯周ポケット内に細菌が侵入した状態を**感染**といいます。
ポケット内に細菌が侵入すると**定着**、**増殖**します。**毒素**や**酵素**などを
産生し、歯周組織(歯肉や歯を支えている骨等)に損傷を与えます。

歯周病の要因論



歯周病菌の一種であるPg菌は血流から血管壁に入りコレステロールを集め動脈硬化を引き起こします。



更に別の歯周病細菌Aa菌が動脈硬化した部分を傷つけ血の固まり「血栓」を作ります。

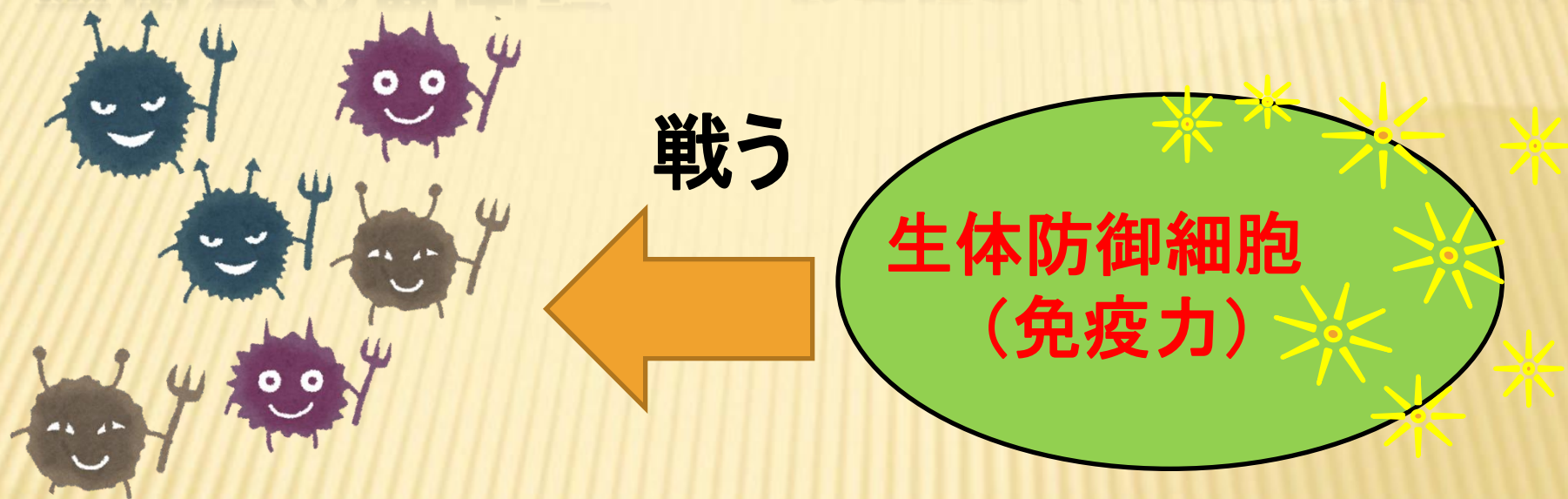
歯周病の要因論



この「血栓」が心臓の血管に起これば「心筋梗塞」
脳の血管におこれば「脳梗塞」の原因になっていく。
(脳梗塞で歯周病の人はそうでない人の2.8倍脳梗塞になりやすいとも言われる。)

歯周病の要因論

なぜ腫れる？骨が溶ける？



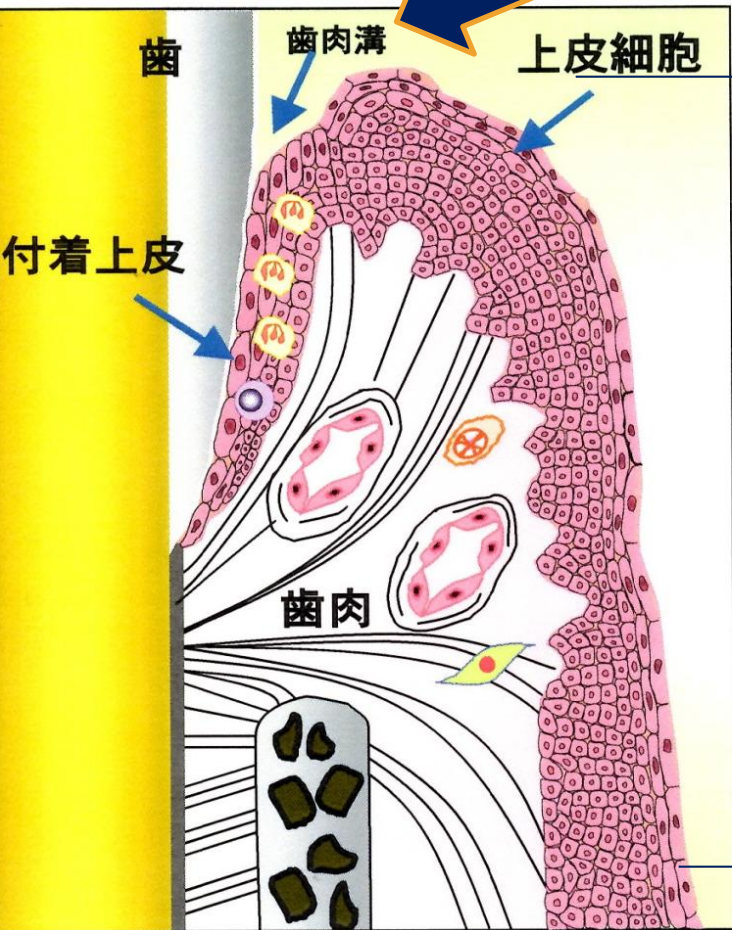
歯周病細菌が侵入すると感染を受けた生体はそれに対して
生体防御細胞により細菌を排除し生体を防御しようとする

これは私たちが生きていく中で、当たり前に行われている。

歯周病の要因論

なぜ腫れる？骨が溶ける？

初期症状はココに細菌がたまり、
ポケット内皮が荒れる・・・



肌荒れのニキ
ビと似ている

↓
発赤（赤み）

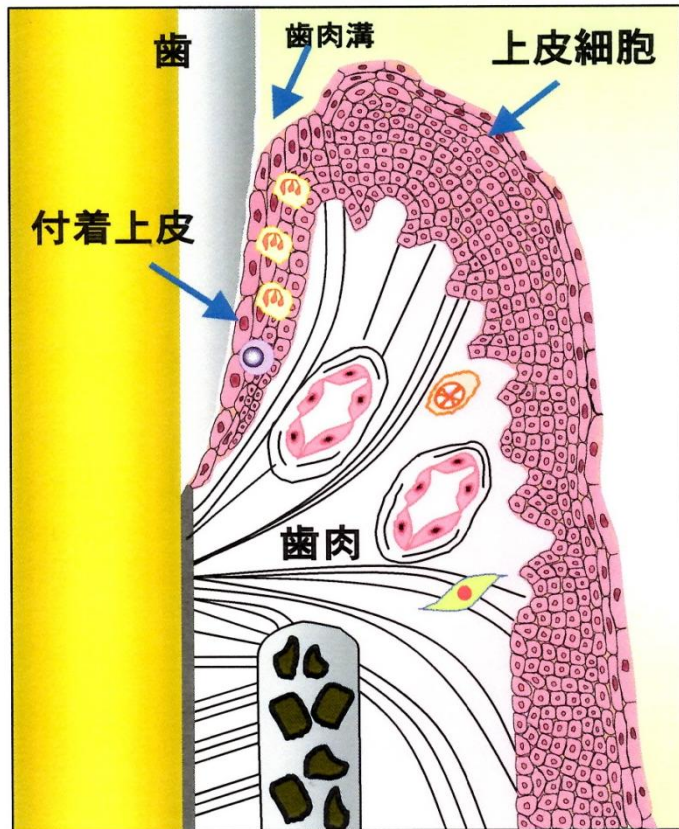


この部分に炎症はない為ホームケアで
出血がなくても歯周ポケット検査では
出血が認められる

↓
自宅では気づきにくい！！

歯周病の要因論

なぜ腫れる？骨が溶ける？



免疫細胞出勤！

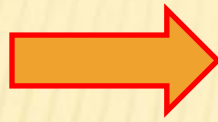
マクロファージ

単球

防御細胞の好中球は細菌をまるごと取り込んで分解酵素により細菌を殺します。細菌と戦い、戦死した好中球は膿になって**歯肉の溝**から出てくることになります(**排膿**)

歯周病の要因論

なぜ腫れる？骨が溶ける？



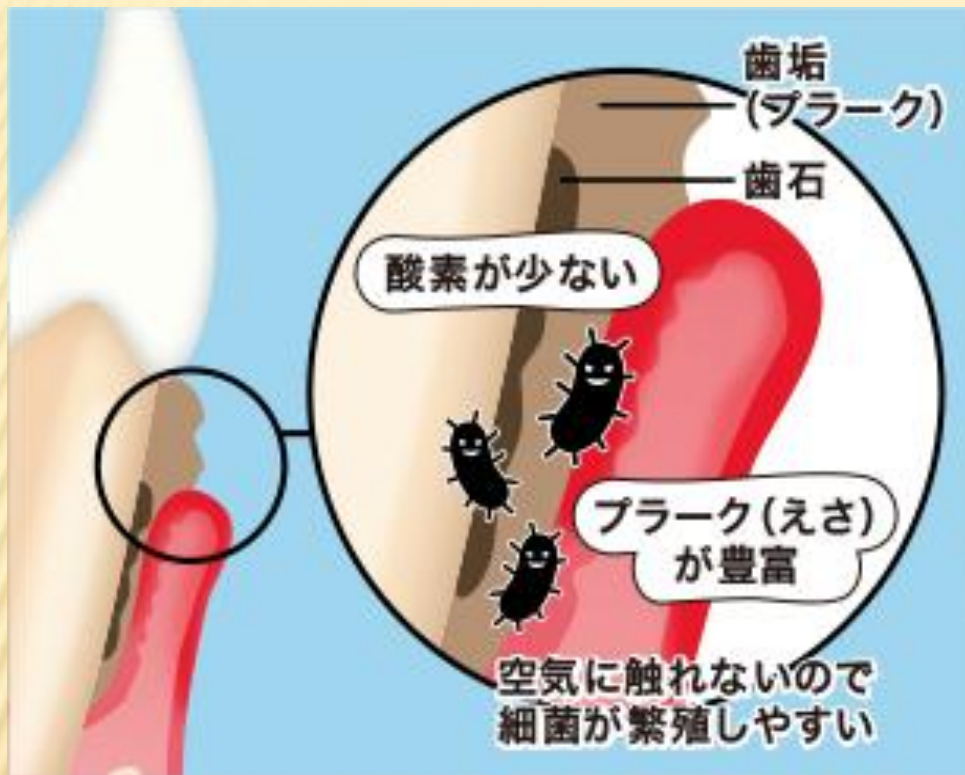
荒れた上に更に
菌が増殖、免疫
作用が働く



排膿（膿が出る）

膿が出るのは免疫力が働いた証拠。・・・しかし

過剰に働きすぎる免疫の副作用として、細菌に与えるダメージを自己（歯を支えている骨）にも与えてしまう＝**骨吸収**



このポケット内の清掃を行うのがこれが歯科衛生士の行う歯周治療（歯肉縁下内の歯石除去）です。
これにより硬くなった細菌層を取り除き歯面を滑沢に仕上げます

歯周病の要因論

歯周治療を行うと？



レントゲンで見える縁下歯石



歯石が除去され腫れが引き隙間がスッキリ！

きちんと治療し、すっきり快適になりました！

前歯を裏から見ると？ 大量の歯石！ 歯槽骨がだいぶ減っている	歯が動いて歯間が開いています 歯周病検査をしたところ、だいぶ歯槽骨が減っていて中等度歯周炎です。手遅れにならないうちにしっかり治療しましょう。ブラッシング指導もしますので、ぜひ覚えておうちで毎日続けてくださいね。	初診 62歳の患者さんです。「口臭がひどい」と来院さいました。8年ぶりの歯医者だそうです。歯石がタッブリ付いていて、歯ぐきも腫れています。
少しクッキリしてきた	腫れが引いた 歯ぐきの腫れが引き、もう口臭はしません。エックス線写真で治療後の経過を確認すると、歯槽骨の減少がストップし以前よりクッキリ見えます。経過良好。この調子でいきましょう！	1年後 ブラッシング指導を続けながら4～5回かかってしっかり歯石を取りました。歯みがきが上手になり、おうちでのプラークコントロールがバッチリ。3ヵ月ごとの定期受診で歯周ポケットのなかもきれいになっています。
歯ぐきが引きしまり歯間が自然に閉じた！	数年に一度エックス線写真を撮り確認していますが、歯槽骨をバッチリ維持できています。この調子なら80歳になっても大丈夫。一生ご自分の歯で食べられるように、これからも再発予防を続けていきましょう！	8年後 70歳に。セルフケアがいていなくて、「歯ぐきのなかをきれいにしてもらおうと気持ちがいい」と、再発予防のために3ヵ月ごとの定期受診を継続中です。



歯周病と全身疾患の関わり

● 認知症

歯周病予防による動脈硬化のリスクの低減が認知症の予防になります。

● 癌

歯周病により癌のリスクが高まる可能性があります。

● インフルエンザ

歯周病菌の産生する内毒素により、ウイルスに感染しやすくなります。

● 誤嚥性肺炎

誤嚥によって歯周病菌が肺に入り、肺炎を引き起こします。

● 関節性リウマチ

歯周病治療により、関節リウマチの症状が改善した報告があります。

● 早期低体重児出産

歯周病菌の炎症により産生される物質が、胎児の早産や低体重児出産のリスクを高めます。

● エイズ

歯周病菌がHIVを活性化させ、エイズ発症につながる可能性があります。

● パーチャー病

患部の血管の大部分から歯周病菌が検出されています。

● 肥満

あまり食べなくても太りやすい体質は歯周病菌が肝臓と脂肪組織に脂肪を沈着させることが原因なのです。

● 虚血性心疾患

血液で心臓に運ばれた歯周病菌が血管に血栓を形成することでリスクが高まります。

● 心内膜炎

心臓の弁に歯周病菌が感染して起こることがあります。

● 心筋梗塞

心筋梗塞で亡くなられた方の冠状動脈から歯周病原菌が検出されたなどという報告があります。

● 動脈硬化症

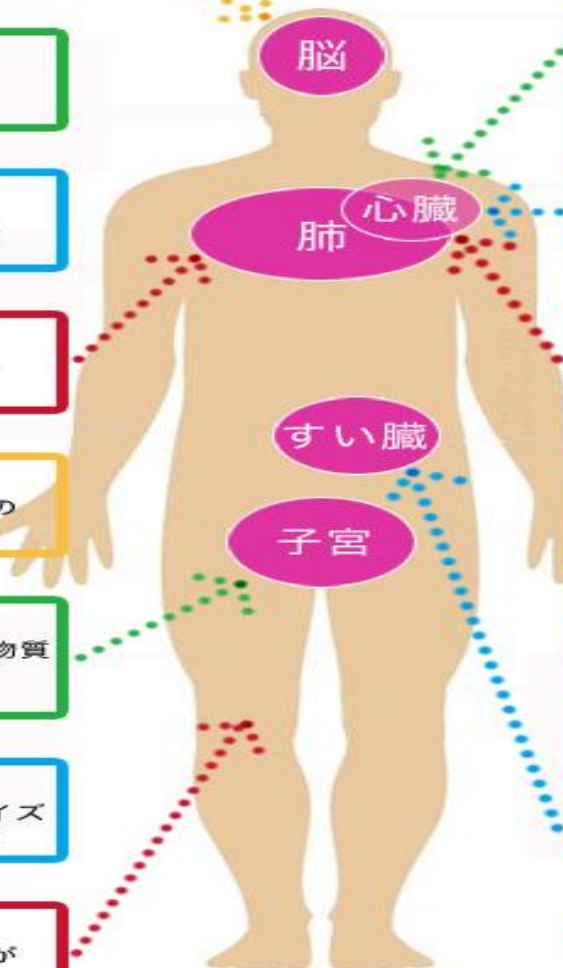
血管内壁が厚くなって血液が正常に流れなくなり、血栓ができます。患部から歯周病菌が検出されています。

● 骨粗鬆症

骨粗鬆症の患者は歯周病にかかりやすく、重症化しやすい傾向にあります。

● 糖尿病

糖尿病の第6番目の合併症と言われており、発病・重篤化した歯周病が慢性炎症としてⅡ型糖尿病を悪化させます。



歯周病と全身疾患の関わり

セルフケア
ご家庭での歯磨きなど



プロフェッショナルケア
歯科医院での予防的処置

歯周病の予防と改善

喫煙習慣

遺伝による
歯周病リスク

歯 周 病

肥満

メタボリック
シンドローム

糖尿病

心血管疾患、
内臓疾患、網膜症や
神経障害などの
合併症

心血管疾患

心筋梗塞・脳梗塞、
動脈硬化症、
感染性心内膜炎
(細菌性心内膜炎)

**早産 (低体重児出産)
のリスク UP**

呼吸器系疾患

COPD(慢性閉塞性肺疾患)に
よる急性増悪や誤嚥性肺炎

内臓疾患

腎臓や肝臓の能低下
胃潰瘍などの内臓腫瘍